

## 地球温暖化を知るために・続（レファレンス・コーナー）

著者	荻野 洋司
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	186
ページ	60-60
発行年	2011-03
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00004302">http://hdl.handle.net/2344/00004302</a>

## 地球温暖化を知るために・続

荻野洋司

昨二〇一〇年夏、日本各地で、また世界でも異常な猛暑が持続した。この一月にもブラジルやオーストラリアで、これも未曾有というような豪雨による洪水が起きている。

これらの極端な気象現象は、国連IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第四次評価報告書<sup>5</sup>がいう炭酸ガス<sup>6</sup>の蓄積が起す地球温暖化によるものなのであろうか。

地球温暖化問題とは、地球の平均気温は上昇中、温暖化の主因は人間活動が出すCO<sub>2</sub>の温暖化は人類や生態系にとつて脅威、という科学的知見を述べたこの報告書と、それに基づいたCO<sub>2</sub>削減目標に関連する問題なのである。

当コーナーで温暖化の図書を紹介してから二年が過ぎた。この間にこのテーマを扱い刊行された図書は数百冊に上り、また、二〇〇九年秋にはスキャンダルが起きたため、最近刊の資料を紹介することにした。

最初は、国立環境研究所地球環境研究センター編著『CO<sub>2</sub>が知りたい地球温暖化』<sup>1</sup>

と二』（成山堂書店 二〇〇九年三月と二〇一〇年三月）。温暖化の科学、影響、対策の三構成で、温暖化に関する質問や疑問に、Q&A形式で同センター研究員が回答している。

センターのニュースレターに二〇〇六年一月から五四回連載された記事を加筆・修正にしたもので、その記事はダウンロード可能（[http://www.cger.nies.go.jp/ja/library/qaqa\\_indexj.html](http://www.cger.nies.go.jp/ja/library/qaqa_indexj.html)）。

つぎは、専門的な前書と補完しあい、温暖化の全体像を視覚的に提示して簡潔に解説するのが、西岡秀三監修『この真実を知るために：地球温暖化：改訂版』（ニュートンプレス 二〇一〇年一月）。CO<sub>2</sub>削減方法の他、各章末のQ&AにはIPCC問題など前書にない項目も収録している。

また、温暖化解決の実践を訴えるものとして、前回紹介したアル・ゴアが新刊を出した。枝廣淳子訳『私たちの選択：温暖化を解決するための一八章』（ランダムハウス講談社 二〇〇九年一月・原書二〇〇九年）。問題提起の

図書『不都合な真実』の続編に当たる問題解決編である。そして、山本隆三著『経済学は温暖化を解決できるか』（平凡社新書 二〇〇九年一月）は、各国の政策と排出権取引など経済学での対策を平易に解説したものである。

なお、このCO<sub>2</sub>温暖化論への懐疑や疑問への反論に関しては、枝廣淳子・江守正多・武田邦彦共著『温暖化論のホンネ：「脅威論」と「懐疑論」を超えて』（技術評論社 二〇一〇年一月）と明日香壽川・他著『地球温暖化懐疑論批判』（東京大学 R3S/TIGS 叢書 二〇〇九年五月）（<http://www.icsu-tokyo.ac.jp/sosho>）がある。

最後は、S・モシャール・T・フラー共著・渡辺正訳『地球温暖化スキャンダル：二〇〇九年秋クライメートゲート事件の激震』（日本評論社 二〇一〇年六月・原書二〇一〇年）。日本ではあまり報道されなかったが、二〇〇九年一月、欧米でクライメートゲート事件と呼ばれたネット上での文書の暴露で、IPCCの主要メンバーが所属する英国の気候研究所のサーバーから、メールを含む多量の電子文書類が流失し、それらから

ら研究者が温暖化人為説を根拠づけるために行った誘導や歪曲、論敵つぶしがあつたとされる事件が起きた。当書は他の温暖化論争の書とは異なり、この流失の背景と研究所の気候学者の人間ドラマを扱った本である。これには翻訳者によるその後の解説記事がある（『Climategate事件』<sup>7</sup>・『続』<sup>8</sup>（雑誌『化学』二〇一〇年三月号・五月号）（[http://www.kagakudojin.co.jp/kagakuweb/kagaku02/c6503/c6503-watanabe\\_n\\_c6505/c6505](http://www.kagakudojin.co.jp/kagakuweb/kagaku02/c6503/c6503-watanabe_n_c6505/c6505)））。

これを契機に、記述に誤りがあるなど第四次報告書の信頼性やIPCCの運営に関する問題が生じており、これらをもめづつては、松岡敬一郎・藤村みつ子共著『地球環境問題研究』（科学書院 二〇一〇年九月）や島村英紀著『地球温暖化』<sup>9</sup>つてなに？：科学と政治の舞台裏』（彰国社 二〇一〇年八月）。それに以下のウェブ・サイトを見て欲しい。

●日本学術会議公開シンポジウム「IPCC問題の検証と今後の科学の課題」全記録（二〇一〇年四月三〇日開催）（<http://wakamiyasumi.com/archives/5299>）  
●環境省・地球温暖化の科学

的知見・第四次評価報告書に関するIPCC声明（<http://www.env.go.jp/earth/ondanka/knowledge/html>）  
●地球環境センターニュース「座談会：IPCC疑惑をめぐって」と「IPCC報告書はどのように作られる？」（二〇一〇年七月号・九月号）（<http://www.cger.nies.go.jp/activities/supporting/publications/news/>）

●EJCOMコメント・山口光恒『地球温暖化 日本の戦略』「IPCCの科学的知見と政策 前編・後編」（二〇一〇年一月一八日・一月一日）（<http://eco.nikkei.jp.co.jp/em/column/yamaguchi/index.shtml>）  
●これらの資料に関連する「メントは、菊地誠ウェブログ Kikudog の「地球温暖化問題」（<http://www.cpcmc.osaka-u.ac.jp/~kikuchi/weblog>）。

（注）

『IPCC地球温暖化第四次レポート：気候変動二〇〇七』（中央法規出版 二〇〇九年八月）

（おぎの よしじ／アジア経済研究所図書館）